



4月2日 障がい応援大使めんぼーくんの任命式（市長応接室）



4月5日 平成27年度消防団入退団式（市民文化会館）

DT  
Photo My Town  
フォトマイタウン



4月5日 桜の名所（三嶋大社）



4月13日 本の読み聞かせ（子育て支援センター）



4月16日 富士山と桜（山中城跡）



4月4日 第77回三島みどりまつり（長伏公園）



4月6日 入学式（東小学校）



4月19日 三島でインディア2015（楽寿園）



4月5日 ラジオ体操50周年記念大会（三嶋大社）



4月10日 ネパール元首相と来日国の市長訪問（市長応接室）



4月6日 入学式（東小学校）



## 豪農の本棚から —安久・杉山家に 伝わる古書—

今回は、郷土資料館で開催中の「新規収蔵品展」の中から、安久の杉山家より寄贈された古書について紹介します。

杉山家は江戸時代に安久村の名主などを務めた家柄で、明治時代には初代中郷村村長となった杉山正平氏を輩出しています。杉山家には江戸時代の年貢に関する資料など、安久村の支配の様子がうかがえる古文書や、祝いの席で使用された食器類、書籍などが残されていました。

中でも書籍は数多く、四一七種七四六冊になります。江戸時代から明治時代にかけて出版されたものを中心に、国学、和歌、漢詩、歴史、園芸など幅広いジャンルにわたって所蔵されており、杉山家の人々の文化への関心の高さがうかがえます。

その蔵書から垣間見える杉山家の趣味の一つが園芸です。中でも朝顔の栽培に関する本が複数所蔵

されていました。

江戸時代以降、朝顔は庶民の間で、たびたび大流行した品種です。明治三十年代には何度目かの流行の波が来て、朝顔雑誌や書籍が多数出版されました。杉山家で所蔵していた朝顔に関する本も、この頃に読まれたものと推測できます。

明治三十五年（一九〇二）に出版された岡吉寿著「あさがほ錦之露」（写真①）は、品種ごとの朝顔の花の形と色を図版で紹介したもので、多数の朝顔が美しい彩色で描かれています。

また杉山家では、菊の栽培も行っていたようで、明治十七年（一八八四）には観菊会が開催されています。その際に参加者たちが寄せた画帳（写真②）が残っています。会には、俳関と呼ばれた伊

豆佐野の滝ノ本連水をはじめ、周辺の文人名士が多数集い、華やかなものであったようです。家業の傍ら地域行政にも尽力し、読書を通じて教養を磨き、余暇には和歌や漢詩を詠み、園芸に精を出す：杉山家に残された蔵書からは、地方豪農層の高い向学心と充実した生活ぶりが、生き生きとよみがえってくるようです。

◀写真①「あさがほ錦之露」



▲写真②観菊会での画帳

紹介した古書を含む企画展は、六月二十八日(日)まで開催しています。さわやかな春の日、楽寿園内の郷土資料館まで足を延ばしてみてください。



ふるさとの人物ゆかりの地⑭

### 小出正吾とその祖父

小出正吾は、明治三十年（一八九七）、三嶋大社近くの小出家に生まれた児童文学者で、三嶋を題材にした作品を多く残しました。

明治八年（一八七五）ごろ、大社前でキリスト教宣教師が辻説法を行っていると、群衆に囲まれ騒ぎになったことがありました。正吾の祖父、市兵衛は彼をひそかに救い、家にかくまいます。気付いた人々が家に押しかけますが、皆普段から市兵衛を頼りにしていたため、「市兵衛さんでは、しかたない」と引き上げていったそうです。しかし翌朝、門と塀に真っ黒なコールトールがかけられていました。そこで市兵衛は「いつそのこと、全部黒塗りにしてしまおう」と門から塀まで残すところなく塗り上げてしまったそうです。

この事件が小出正吾の短編「黒い門」の題材となりました。



▲小出正吾生誕の地（中央町）